

第8回高知県Next次世代型施設園芸農業に関する産学官連携協議会 議事概要

日時：令和3年8月17日（火） 15：00～16：40

場所：こうち男女協同参画センター「ソーレ」大会議室

（高知市旭町3丁目115番地）

オンライン開催

出席：委員11名が出席

1. 開会

○濱田知事 挨拶

○産業振興計画について (杉村農業振興部長) [資料1]

2. 議事

(1) 「I o P (Internet of Plants)」が導く「Next次世代型施設園芸農業」への進化の概要と次年度に向けての取り組みの方向性について

○全体概要 (受田事業責任者) [資料2]

○メインエンジン研究開発の成果と課題 (北野中心研究者) [資料3]

○研究推進部会全体の成果と課題 (本家部会長) [資料4]

○大学改革 (石塚副学長) [資料5]

○人材育成部会全体の成果と課題 (岩崎部会長) [資料6]

(2) IoP クラウドの整備と今後の活用・発展 (岡林 IoP 推進監) [資料7]

(3) IoP による産業育成とプラットフォーム展開 (武市 IoP 推進機構理事長) [資料8]

○質疑・意見交換

(櫻井高知大学学長)

・全体概要説明の中で受田事業責任者から言及があったとおり、農林海洋科学部の改組については、陸と海の2つで構成することとし、農学科と海洋資源科学科のような2学科への再編を考えている。特に陸の部分では、このIoPをはっきりと位置づけ、次世代先端農学コースという形で、できるだけたくさんの方にDXも含めた農業の新しいやり方を広げる、あるいはそれが今後、林業、漁業等にも波及していくように、ということを考えながら改組を進めている。

・その一つの核として、IoP共創センターをしっかり位置づけて構成することにより、「高知の農業は、大学も連携して様々な取り組みを実施しているから進んでる」ということが全国に見えるような形に是非していきたい。

・まもなく高知大学も第4期の中期目標計画期間に入る。その中でも、このIoPは非常に重要な位置づけで考えており、高知県、あるいは高知県の産業界の皆様との連携が我々の生命線だと考えている。これからもご支援をよろしくお願ひしたい。

(杉村農業振興部長)

・本日は、IoP共創センターの設立について高知大学の櫻井学長、石塚副学長より報告を頂いた。また、岩崎人材育成部長より、三大学連携によるIoP入門セミナー等に高知工科大学からも多くの学生の皆様が参加して頂いているという報告を受けた。

今後、更に県内の中高生にIoPの取り組みを知って頂き、興味を持って頂いて県内の大学に進んでもらい、IoPを通じて県内に定着してもらえるような取り組みが必要ではないかと思われる。そういった人材育成の部分でこれからの大学の役割や取り組みについて、高知工科大学の磯部学長、高知県立大学の野嶋学長もご参加頂いているので、一言コメントをお願ひしたい。

(磯部高知工科大学学長)

- ・本日の報告を受けて、本プロジェクトがとても力強く進んでいるという印象を受けた。
- ・大学改革につきましては、改革という言葉が適切なのかは分からないが、より良く、素晴らしい状態にしていくことを目指すべきであると思っている。そのために共創センターや三大学共同のプログラムを実際に始めたので、これを評価していただきたいと考える。
- ・特に、出口のところではどのように人材育成をしていくことができるのか、そのあたりを考えながら引き続き、取り組んでいく。県内には、社会人の方々もいらっしゃるのて、そういった方々に対してどんな形で、県政浮揚に貢献していけるような人材育成の機会を提供できるのか、ということが1つのキーワードとなる。学術的にレベルが高いということは当然必要となるが、それと同時に社会貢献ができるような、社会実装ができるような人材育成とはどのようなものか、ということもこれからは詰めていきたいと思っている。
- ・教育プログラムを色々開始しており、先ほどデータにも出ていたように、たくさんの工科大学の学生も聞かせて頂いている。それについて感謝を申し上げたい、また、さらに進めていきたいと考える。

(野嶋高知県立大学学長)

- ・毎回参加させて頂く度に、プロジェクトが確実に進展、進歩しており、感銘を受けている。
- ・県立大学では食べ物の付加価値のところなどで参加しており、健康と食事、栄養に関してご一緒できるところが多いと思う。
- ・私自身も共創という概念はとても大事だと考える。大学と大学、そして研究者、企業、産業との共創ができる場が新たにできたということで、とても嬉しく思う。
- ・高知県の食・農業を支える人材の育成というところで、広く皆様と一緒に貢献できることがあれば嬉しい。このような機会を与えて頂いたこと、皆様に感謝を申し上げたいと思う。

(受田事業責任者)

- ・今後に向けて事業全体に関わる内容を皆様と共有したい。
- ・内閣府から大学改革地域産業創生交付金に関して新たに加速枠というものを創設するという情報提供があった。事業を実施している当該地域に対してその内容について、内閣府との意見交換が繰り返されている。
- ・更に交付金を投入することによって、地域の特徴ある大学作りにより研究開発計画の地域産業への展開に当初の計画以上の加速・強化・拡大が期待できる取り組み等に限り、国費・支援期間の4年間までの延長を可能とする、という内容である。
- ・金額的にもかなり大きな交付金が今のところ考えられているということで、平成30年度に当該交付金に採択された地域が、高知県含めて7地域あるが、そのうち2～3箇所がその対象になる可能性がある、と内閣府から伺っている。加速枠に関する具体的な仕組みや要綱、詳細な内容については今後明確になる予定である。
- ・現時点ではこれに関する内容をどうするか、まだ具体化をしていないが、関係の皆様と少しずつ協議をし、加速枠の内容に合致するように、すなわち、加速枠で更に本プロジェクトを重点化し、当初考えていた以上の成果の拡大の向上ができる事業を追加していく、あるいは評価をしていくことを念頭に置いている。
- ・現時点では濱田知事が進めておられる産業振興計画の中での重点内容である、持続可能性の部分において、カーボンニュートラルであったり、グリーントランスフォーメーションという言葉、GXという言葉が使われることがある。施設園芸、一次産業においてはカーボンニュートラルに関する研究も当然大きな分野であるため、これまでの取り組みを強く活かし、更に産業的なイノベーション創発という意味でGXの分野で、ということも考えていくことが可能かと思う。
- ・今後、代表者会議や各部会でも協議を進め、県を挙げて提案ができるかどうか検討していきたいと思う。また、皆様のアイデアや魅力的なご提案をお待ちしている。

(杉村農業振興部長)

本日いただいたご意見を参考にしながら、プロジェクトをさらに推進していきたいと思う。
議事について、異議はないか。

(委員一同)

異議なし。

3. 閉会

(濱田知事)

- ・本日は大変お忙しい中、協議会に熱心にご参加頂いたこと、御礼申し上げます。
- ・私自身も本日皆様のご説明を伺い、プロジェクト全体として着実に形が見えてきているという点について非常に心強く感じた。
- ・前回の協議会の中で、実際にサービスを使って頂く農家の方々の視点からどういった成果・出口が見え

てくるのか、というところのイメージをできるだけ明確化して欲しい、というお願いをした記憶があるが、そういった私からのお願いに関しても、最適な成果のイメージをしっかりとご提示頂きながら説明頂き、本当にありがたく思う。

また、中身についても、AI 実装、いわゆるシステムの心臓部を具体的に進めている段階であるということ、そして具体的な研究開発のプロジェクト、こうしたものを平行して進めて頂いているということ、そしてこれを支えていく、今後の体制として大学の方でも共創センターといったご助力を頂いていること、人材育成についても具体的に県内出身の高校生たちが大学、そして IoP に従事して頂けるということを視野に入れた仕組み作りを検討して頂いていること、そういったことも含め、大変心強く感じている。

・受田事業責任者からご説明があったように、本プロジェクトは、内閣府に採択いただいた5 年計画の4 年目という節目であり、いよいよ最終的な成果を念頭においてまとめにかからないといけない段階だが、更にその先を見据えて、加速枠といったような構想も内閣府で準備をしていること、そして武市理事長にご説明頂いた IoP のプラットフォームの自走というところを目指しての体制作りが大事になっている時期だということも含め、プロジェクト全体が現実のものとして社会にまさしく実装されていくフェーズにきており、胸突き八丁の局面に来ているという思いを強くしている。

・今後皆様には是非それぞれのお立場でこの高知県の施設園芸の強化、そして県内の研究機関の一層の発展に寄与すべく、IoP プロジェクトをより力強く推進していくために更なるご協力、お力添えを頂けるよう、心よりお願いして、私からの御礼の挨拶とさせていただきます。